一夕日刊
岩城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘成
福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

町議戰に名乘をあげる候補者の顏觸れ
三十五名は最早確實
大激戰を豫想さる

平町會議員の選擧期日も愈々余す處一ヶ月となつたのでそろそろ選擧氣分が濃厚になりポツポツ正式に名乘りをあげる候補者も現れて來た。來る十日頃までには全部の候補者が出揃ふであらうと豫想されてゐるが、目下の處でら必ず出馬する者と見られてゐる人は次の如くである。

▲民政黨では今一日夜南町倶樂部樓上で銓衡委員會を開き第一回の候補者發表をなす事になつたが、その豫選に上る可き人は、野崎滿藏、萩原義雄吉田五平、佐藤岩次郎の現四議員は銓衡なしに候補者に推薦し、その他新たに馬目雅治（紺）吉田寅之輔（同）武田元之助（新川）荒川淺次郎（六）渡邊貫一（一）永山富廣（古鐵）柳下元吉（紺）の七氏を公認し尙ほ現議員櫻井淸氏も過般民政黨に合流する旨の意志表示をしたから同氏も公認さるゝではないかと察せられてゐる。

以上民政黨公認候補者十二名の外出馬するであらう人は、長橋町遠藤林松（中）材木町石山治三郎（政）研町吉村安次郎（中）紺屋町佐藤作平（中）等出馬確實で、猛進小路からは吉田五平（民）に對し政友派から酒井喜代正氏が名乘りをあげるであらうと察せらる。一丁目は鷹崎貞衛（政）鍛冶町は國府田直良（政）に落付くらしく南町は岡田政次郎（政）氏說あるも起否確かでない。新川町は諸橋國松（政）二丁目關內正一（政）三丁目柏原幸次郎（政）四町目猪狩庄平（政）等各氏も結局推されて出馬するものと見られる。五町目は馬目武之助、星野淸吉兩氏の出馬確實で又結局井上茂作氏も名乘るに至るであらう。鎌田町は鈴木照治氏が或は出るらしい模樣もある。白銀町には高橋龜松氏あり、田町からは森本盛一氏再起すべく鈴木重助氏は政友派から推される模樣である。又無產黨を背景に宇佐美友二郎氏既に名乘りをあげた久保町は結局永山義太郎氏に決し、鐵北では胡摩澤から花澤兎五六、佐々木龍若、堀江正茂三氏が出馬するであらうと見られてゐる。この外土木請負業者が結束して佐々木健一郎氏を推す由であるから目下の處で既に出馬確實な候補者が三十五名以上に上り早くも激戰を豫想さるゝに至つた

奉公させると稱して人妻と夫婦氣取り
憤慨した不具の坑夫
手斧で頭部を一擊

耶麻郡奧川村當時住所不定小椋吉次郎（三六）は昨年七月中磐城入山炭礦に坑夫として從業中落盤の下敷となり危く生命を取止めたが爾來腰部を損傷し勞力に堪へない處から昨年一月中磯原町重內礦に轉山內線の妻渡邊ツギ（二六）の稼ぎで辛くも子女四人を抱へてくらしてゐたがその日の米鹽にも不足を告ぐる有樣に夫婦相談の上ツギは磯原町周旋業小林亥之吉の周旋で東京市外鶴見町へ女中奉公する事となり同月十七日亥之吉に連れられ同地に向つたがツギは奉公に出でず亥之吉と共に鶴見町に同棲夫婦氣取りでゐると聞き上京四十日後に同人を呼び戻し內ケ郷村綴炭礦に轉住する事となつたが二月中ツギは子女を捨てゝ再び家出行衛を晦ましたので吉次郎はテツキリ亥之吉と相通じて出奔せるものとにらみ二十八日磯原町重內炭礦下山田作太郎方に一泊し二十九日午前八時頃亥之吉を訪ひ口論の末庭前にあり合せて來たゝめ役場でも間違ひなしと察せらる。一丁目は鷹崎貞衛（政）鍛冶町は國府田直良（政）に落付くらしく南町は岡田政次郎（政）氏說あるも起否確かでない。新川町は諸橋國松（政）二丁目關內正一（政）三丁目柏原幸次郎（政）四町目猪狩庄平（政）等各氏も結局推されて出馬するものと見られる。五町目は馬目武之助、星野淸吉兩氏の出馬確實

し手斧を手にして同人の頭部に一擊を加へ亥之吉が血にそまつて轉倒するのをみて殺害したものと思ひ直にその筋に自首し出たので取調の結果三十日送檢されたが亥之吉は生命に別條なかるべしと。

昨年より少い石城の米高

平穀物檢査所管內の在米高は五月一日現在六萬一千三百二十五石で昨年度の七萬二千八百六十石に比べると一萬千五百三十五石一割四分の減少である、之は收穫が少なかつた上に賣人が多いためであると。

もう確實に安心
平町の地下採掘問題

好間村古河炭礦では過般仙臺鑛山監督局に提出した平町地下採掘の件が不許可になつたので之に對し商工省に訴願を提起したといふ事を聞き知つた平町當局では一大事であると伏見町長、野崎、佐々木兩町議は昨三十日帶同して上京し商工省鑛山局を訪ひ渡邊鑛政局長並に笹生鑛業局長に面會して事實を調査した處、右訴願は既に取下げたのみでなく、現在では訴願期間の一ケ月を既に經過したからもう心配はないといふ事が判り安心して歸平した。

民政黨の倒閣演說會

石城民政黨では十九日、二十日平町外二ヶ所で倒閣演說會を開く事になつたが辯士は松田源治外數氏である。

有聲座前の便所にかくれてゐた泥棒

石川郡石川町字和久有松好衛（二〇）は三十日夜平町舊城趾ラヂウム旅館德竹正右衛門方に宿泊し一日午前八時頃宿料を踏み倒して逃走したが有聲座前の共同便所に潛伏してゐる處を捕はれ取調べの結果去る二十七日午前十時頃東京府下杉並町字馬橋某方の不在宅に忍び入り箪笥の中から現金三十七圓五十五錢を竊取した事を自白した。

修養團役員決定

去る二十九日內郷村昭和館で發會式をあげた修養團磐城炭礦支部役員左の如し。

▲支部長水野虎三郎▲幹事長濱崎善三郎▲幹事山口馬太郎外十一名

聚樂館の緞帳開き

平町聚樂館では兼ねてから舞臺緞帳を新調中であつたが愈々出來上つたので名題片岡燕之助一座の歌舞伎一座を招き五月一日から華々しく開演する由であるが、木戸は幕開きのため特に大人二十錢、小人十錢の勉强である。初日藝題左の如し。

▲一番目木村長門守通し▲中幕梅川忠兵衛新口村の段▲大切市ヶ原大だんまり

女のやうな男の名前

今年七月執行される徵兵檢査のため平町役場では町內適齡者の調査をなし若松聯隊區に報告したところ適齡者の中に平町一丁目小間物商渡邊きよし（二二）といふ名前があつたので同聯隊區では何かの間違ひではないかと町當局に問ひ合せて來たゝめ役場でも間違ひかも知れないといふので直に再調査をしたところ正眞正銘の立派な男子であることが判明した、男子で女子の如き平假名の名は珍しい事であるが、原因は或種の迷信かららしい。

刑務所の思ひ出
◆……獨房の筆を讀んで
（中）　和歌蘭生

高田が僕達に語つた話は實に面白く聽いたのであるが、僕がその話の節を書いたのでは甚だ面白くないものになるだらう。この話などは筆の達者な人なら早速文藝春秋の實話に投書でもすればいくらかの稿料にはなる代物ではないかと思はれるものだし、創作家の手に扱はれたら騷擾事件を背景にして一篇の創作がこねあげられることだらうと思はれるのである。

筆の藝當とは—僕達はこの話をこう云ふてゐる。豫審の取調が始つたとき拾四人の同志は皆な不安に襲はれた、就中丹澤は檢事の取調に對して二つの暴行事實を否認してゐたので豫審の取調には一層不安を感じてゐたので、高田の處へ暴行の一つだけ自白しやうと思つてゐると秘密の通信をよこして相談した、と云ふのは、彼等二人は室の堺の板に××を造り密に文通してゐた監房には筆は勿論鉛筆もないので彼等は差入の本を破いて箸で紙に文字を書いたと云ふよりは紙に傷けたのだ、文字は皆な片假名でなければ讀めなかつた、で、高田は丹澤の苦悶に同情して直ぐ返事を送つた、幸田がいま豫審に引出されたのだからこの次は俺だと思ふ、俺が豫審から歸つてきたら取調の樣子を詳しく知らせるから自白の決心はそれからにしろ、高田はこんな意味を極く短文にして書いたのである。

幸田の取調が濟むと午前十時頃高田が豫審に引出された、彼の取調は午後四時頃終つたので監房に歸ると直ぐ差入の辨當にばくついたほど腹が減つてゐたので丹澤との約束を忘れてゐた、で、丹澤は心配になるので取調の樣子を知らせろと催促したのだ、高田は忘れたのを濟まないと思ふて飯を食ふてゐた箸で例の通り紙に文字を傷けたが、思ふやうに出來ないし、豫審の取調を詳しく同志に知らせたい一心から一人で焦々してゐたのである。（つゞく）

季節
鳥御料理
柳川
舞子丼
仕出しは迅速配達致します
平町南町平館隣り
鰻蒲燒　魚榮
電話四二四番

修學旅行通信

―磐高女四年生（第三信）

▲四月二十七日　幼い日より夢に抱いてゐた憧れの里、本邦唯一の古典的な都市、京洛の朝は春雨に煙る仄かな匂ひを私達に與へつゝ靜かに明け放れました。眠い眼をやつと細目に明けて曉の京國を見通し午前七時偉大なる建築物東本願寺に詣で、一目散に電車で嵐山へ向ひました、しつくりした鉛丹の格子戸、華やかさの中にもどこか落ちつきのある古代めかしい家々、嵐山は確かに私達の期待を滿たして錦繡、御即位當日田中首相が萬歳を奉唱した位置などを拜觀し、それから左掖門を出で春興殿、大饗宴場へ入り、極彩色の唐草崩し美しい桃山風の格天井等を仰ぎ、清淨そのものゝ大嘗宮、恁紀、主基の兩御殿を拜し終つて再び御苑に出ました。自然と人工との色彩が清淨と美とに滿たされ幽邃閑雅な御殿は丁度落日を浴びた、卯月の空にくつきりと浮き立ち、いかにも嵩高森嚴な大氣が春の神曲を奏でゝ自ら一種言ふことの出來ない強い國民的信念に蘇生らせて下さいました。

それから平安神宮に詣で、更にくれました。美しい嵐峽、ゆつたりと水に游泳してゐる幾つものボートさも私達を待ち顔に……こゝで暫し景色を恣にして再び電車で北野神社、金閣寺など、ありし日の華やかな大宮人となつて歩き廻りました。

それより京國の、そして神々しい御所を拜觀する事が出來ました。薄紫の香りがほんのり私達の頭腦に泌み込んで參りました。

暖い綠の若草に燃ゆる苑道を次から次へと、長蛇の樣に縫うて宣秋門、御車寄から紫宸殿の南庭に進み、高御座や御帳臺、正面十八級の御階、左近の櫻、右近の橘、庭上の諸に淨土宗の總本山知恩院に賽し、甚五郎の忘れ傘、鶯張りの縁に興を惹き、八坂神社などを拜し途上珍らしい京國のアクセントを眞似たりして五時過ぎに宿へ着き、鴨川の清流に卓を圍んで一日の疲れを醫すことが出來た。

春の歡樂に
品質本位の
芳醇銘酒
白馬の雪
どうぞ御用命の程願上ます
辰ノ口本家
平窪松本德一
電話（平）七五二一番

ハガキ集

―（投書歡迎）

▲平町役場廳舍新築行惱むの記事を見て一考案を呈す。

一、現在町有土地賣却は時機でない、然らば何時賣るか。

二、昭和六年末過に賣却する事方法は委員を擧げて絶對信認一任せよ。

三、委員の資格は改選後の町議中より三人、計五人とす。但百澤氏の如き土地に對する經驗者を入るゝ事。

四、而して土地處分の上は必ず支拂ふ町會の決議を以て本町富豪五人位より一時賴牲的精神に愬ひ醵金して戴く事。（無利息でなく年利三分に）

五、而して新進の本町の爲め不況の折柄度膽を拔くが如き新廳舍の一日も速かに實現を期せられ度と献言すること以上である。（平町一有志）

彼女は結核だつた

平町某醫師手記（三）

疑問は意外の方面から氷解される。電車の轢死婦人については新聞も詳しい記事を掲げなかつたが丁度火曜日のお晝に病院の食堂で隣合つた內科に勤務してゐる友人から、偶然にも始めてそれが判明した。

「俺の診てたシヤンが一昨日の晩自殺して了つた」友人はさういつてなほ付け加へた。

「轉地をしろ」

たんだがリーペに乘てられて×電車に飛び込んだんださうだ」

私は東京から歸途丁度その電車に乘り合した事を話し、更に昨日の新患の事も語つて未だに不可解の謎に不安を覺へて居る事を告げた。

友人は自殺した女の父親に會つたさうだ。私は友人から始めて事件の眞相を說明し得る事を聞く事が出來たのであつた。

自殺した彼女は結核であつた。

「極端にいへば俺が彼女を殺したやうなものだ」友人は云つた。

「若しも俺が彼女の病氣を治してやつたら彼女は死なずにすんだかも知れなかつた」と彼女は肺病のために戀人から棄てられて了つた、それば

りでない、轉地と治療とのために東京からこの町に來てゐる彼女の妹が彼女の戀人を奪つて了つたのである。

彼女が自殺する常識から考へて、彼女が自殺の原因をこれ以上に說明する必要はあるまい。

內臟外科專
骨關節外科專
整形外科門
藤本順

產婦人科院
外科長
木村寅次郎

產婦人科
木村病院
平町新川町（電話一六四）

金絲仙に三弁
電話三十八番
七五一番

藥學博士　丹波敬三先生製藥指導
醫學博士　豊島豊次郎先生動物試驗
咳止の妙藥
オピール錠
特約店
平町一丁目（電話四六二番）
大平屋藥店

美味にして強壯の効著大
血をふやし肉を肥やす
スポン飴
本舗　大阪東區谷町三丁目　檜屋長次郎
各藥舗食料品店にて
錠ピロクモヘンポツス　定價三圓
圓ピロクモヘンポツス　定價二圓
代理店
平町五丁目角
山野邊藥局

醬油と味噌
合
福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部專用一〇番　一般用二七番）
振替東京一九七五五番
上野車坂四三
東京支店
電話下谷五七一二番
振替東京六八三一二番

靴とカバンは
福山に限る
平町役場前
福山支店

印……刷……物……は……加……納……活……版……所

平町田町
佐藤美藥局
取次販賣店

▲蠅、蚊、蚤
南京虫
其他虫類退治は世界的に實行旺盛なる
◎本特許品に限る
▲牛馬の虱、蠅、蚊除に本劑を用ゆれば、牛馬は夏ヤセせぬ。
▲犬のダニ（猫の蚤）駆除に
▲鳥の羽虫、豚の虱
▲衣類書籍の虫　効力絶大
◎大掃除には、衛生上是非本品をマカれよ！
◎穀作物の害虫驅除には
イマヅ殺虫劑
◎便所臭氣止には
防臭　イマヅ芳香油
を用ひられよ
H—12
特許第
今津佛國理學博士發明
衛生試驗所證明
商標　A　登録
リマイ
大阪市東淀川區三國
今津化學研究所
【ニセ物御注意】
三十瓦入　小罐
半磅入　中罐
一磅入　大罐
▼到る處の商店にあり▲